

# 2011年下期の回顧と2012年上期の展望 業種別部会長シンポジウム

ブラジル日本商工会議所

食品部会

2012年2月14日(火)

# 目次

- ◆トピック(固形廃棄物規制)
- ◆部会各社の動向
- ◆原料動向
- ◆まとめ

# 固形廃棄物法対応(1)

- ◆ 制定 2010年8月2日連邦より公布  
(ルーラ大統領署名)
- ◆ 趣旨 固形廃棄物を生成する製品を製造・販売する会社はその処理について責任を持つこと。具体的な回収プランを立案・提出すること。

連邦・州・市町村それぞれのレベルで同法の理念実現に向けて努力すること。

# 固形廃棄物法対応(2)

## ◆環境にダメージを与える製品

- 車両用潤滑油・食用油・潤滑油フィルター
- バッテリー・電池・電気電子製品
- ランプ類(水銀入り)・タイヤ

## ◆環境にダメージを与える包材を含む製品

- 食品・飲料・衛生用品・香水・化粧品
- 清掃用品・農薬・車両用潤滑油

# 固形廃棄物法対応(3)

◆問題点・・・廃棄物の回収(逆物流)を一企業単独で担うのは非常に困難

- 専門業者に依頼する → コスト大
- 自社回収 → 労働・衛生問題

→ 業界団体、または他社と共同プロジェクトを組織することが望ましい。

# 固形廃棄物法対応(4)

## ◆現在進行中のスキーム

- 2011年8月、SP州よりプロジェクト提出依頼  
→ 以下の形にて立案・提出



# 固形廃棄物法対応(5)

## ◆現時点での状況

- NPO法人への分担金の配分を巡って企業間  
の話し合いが紛糾
  - プロジェクトそのものは9月末に提出されたものの、未だ予算規模が決まらない状況
  - 当局が当提案を採用しない可能性も？
- 個別プロジェクトを組む場合、一企業にとっての負担増は深刻な問題。

## 部会各社の動向(1)

分野	2011年下期の回顧	結果の分析
調味料製造	数量7%増	末端営業活動の強化
乳酸飲料	数量8.5%増	地道な活動の成果
添加物販売	現状維持	利益切迫
コーヒー販売	数量2.3%増	スローダウン
菓子用油	減少	市場暴落
清酒	増収増益	社員一丸にて取組
醤油	売上伸張	特需継続



## 部会各社の動向(2)

分野	2011年下期の回顧	結果の分析
果実ピューレ	減収減益	為替要因
即席めん	数量8%増	新興市場の構成比アップ
種子	売上18%超増	市場規模拡大
外食	売上伸びず	輸入規制影響

## 部会各社の動向(3)

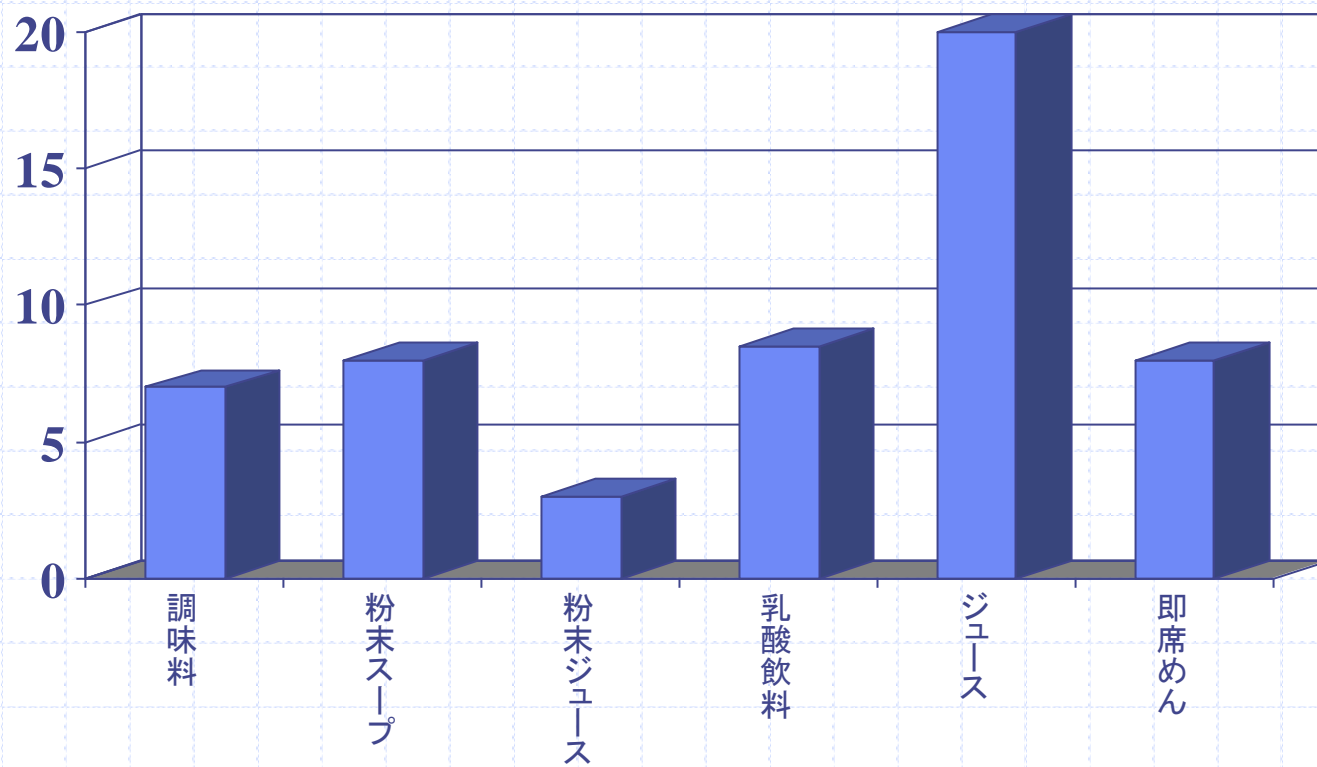
分野	2012年上期の展望	戦略
調味料製造	前年比二桁以上を目指す	既存製品の堅実な伸び+新製品チャレンジ
乳酸飲料	前年比4%強増	地方の拡販に注力
添加物販売	現状維持	国内市場への参入
コーヒー販売	予断を許さない	価格競争激化
菓子用油	変わらず	製品のバラエティ化
清酒	市場混乱懸念	規制・税制・競争激化
醤油	特需の継続は？	戦略的マーケティング

## 部会各社の動向(4)

分野	2012年上期の展望	戦略
果実ピューレ	欧州向けは苦戦中	新市場開拓
即席めん	地方部の成長は継続	地域による顧客ターゲットの絞り込み
種子	減少予想	販売体制の再構築
外食	依然、コンテナ停滞中	メニューの見直し、広告宣伝強化

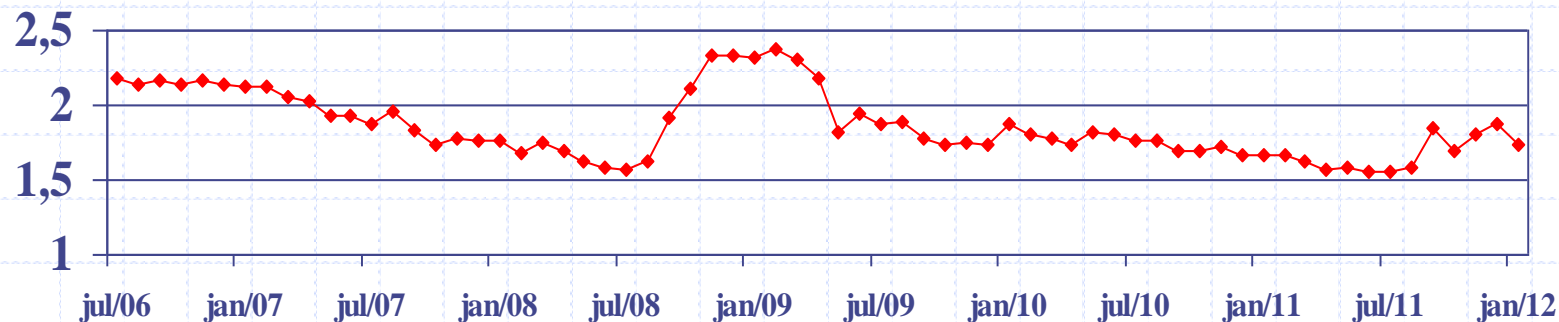
# 品目別動向

■ 2011年下期伸張率 (%)



# 輸出動向

過去5年間のドルレート推移

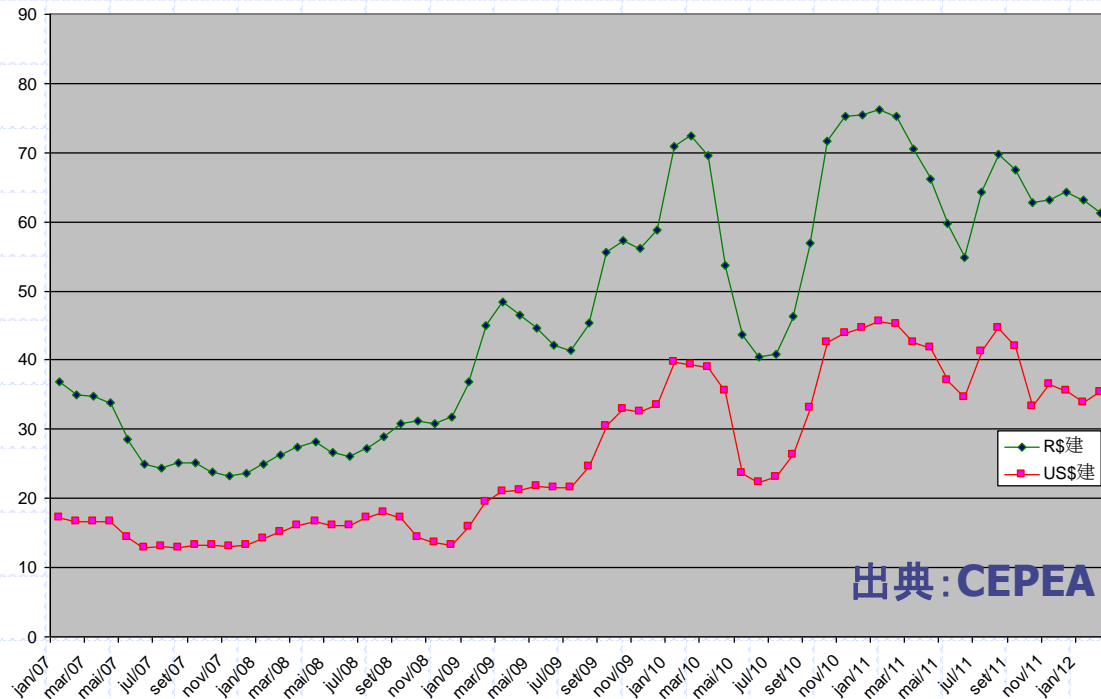


- ◆ コーヒー
  - ・・・相場反転が価格競争に足かせ
- ◆ 調味料
  - ・・・原料高と為替懸念
- ◆ 飼料
  - ・・・為替懸念
- ◆ 果実ピューレ
  - ・・・欧州向け苦戦中
- ◆ ジュース
  - ・・・数量増も採算は為替次第

# 原料動向

## 砂糖相場の推移

### 2007年以降粗糖相場(50kg)の推移



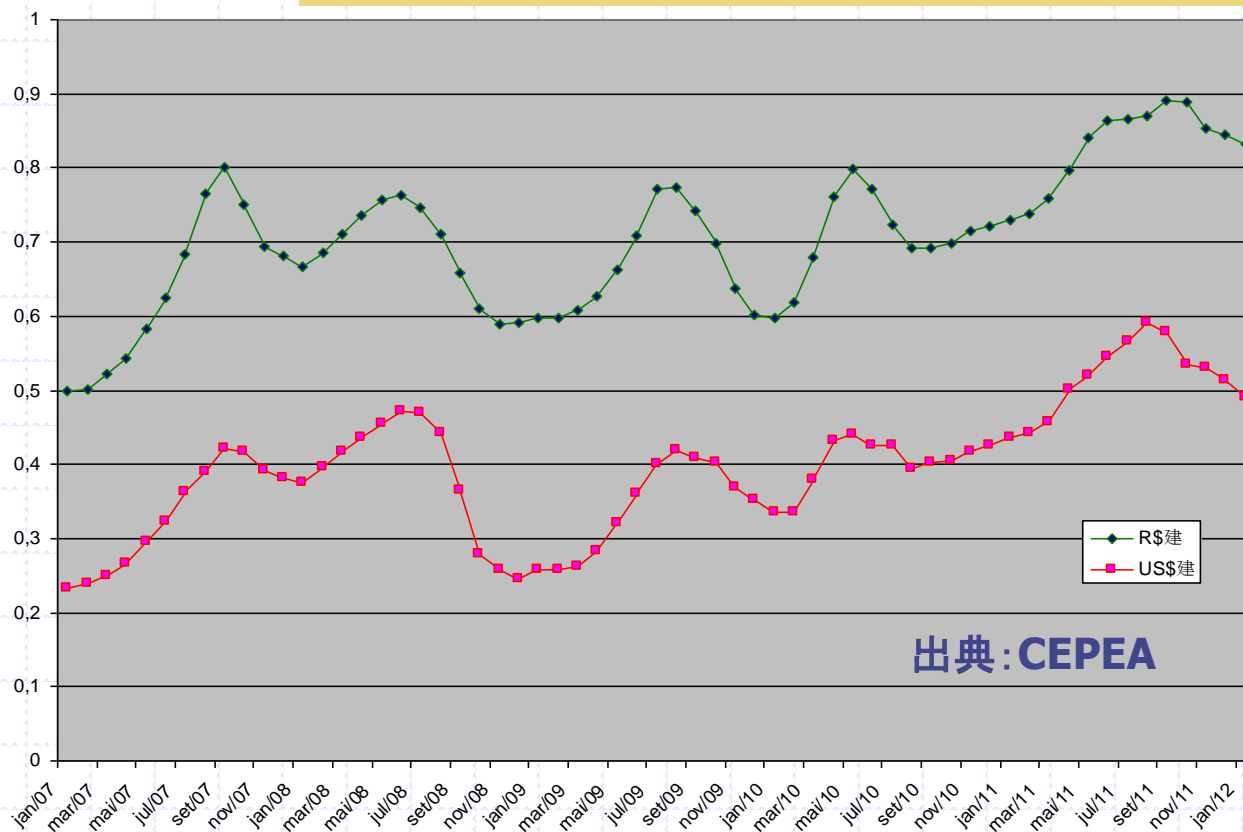
出典: CEPEA

◆粗糖相場は2007、8年には12～13ドル/kgと安定して推移していたが、2009年に入って急上昇。2010年1月には40ドルに達した。その後2011年まで乱高下を繰り返していたが、2012年に入ってようやく平穏化。しかしながら依然35ドル前後の高値圏にある。

# 原料動向

## 乳相場の推移

2007年以降乳相場(リッター当たり生産者価格)の推移



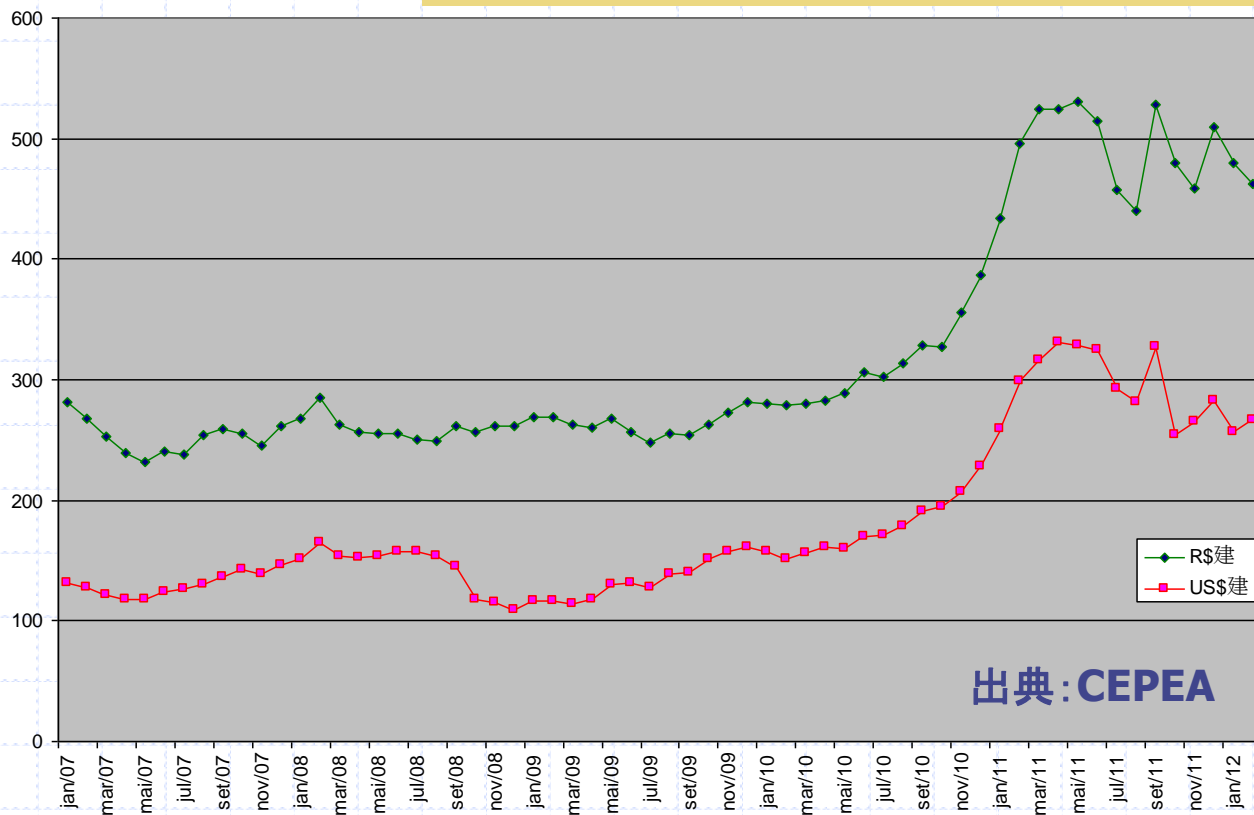
出典: CEPEA

◆ 周期的な乱高下を繰り返しつつ傾向としては上昇。2010年後半より一本調子で上昇していたが11年8月をピークに下落に転ず。しかし同時に始まったリアル高で未だ十分に恩恵を得ていない。

# 原料動向

## コーヒー相場の推移

2007年以降アラビカ種60kg現物渡し価格推移



出典: CEPEA

◆近年になく突出していた2010年以降の急上昇トレンドは終焉したようであるが、依然高値圏内にあり相場の動きもまた不安定である。



# 原料動向

## 全体コメント

### ◆ 相場高騰の要因

- ① ブラジルを始めとした経済新興国で生活水準が向上し、食品消費が拡大したこと
- ② 石油代替燃料となるエタノール需要の増加が砂糖や穀物の価格を下支えしていること
- ③ 世界各地の異常気象
- ④ 投機マネーのコモディティ市場への流入  
→ 欧州通貨危機で多少緩和されたものの、基本的な条件は変わっていない。

# まとめ(1)

## ◆ 2011年下期回顧

(1) 全般的に国内市場は良好。一部に頭打ち傾向が見られるものの、各企業の努力でこれをカバー。

(2) 原料相場は引き続き高値圏にある。また行き過ぎた賃金調整がコスト圧迫

(3) レアル高は一段落したものの、欧州通貨危機で輸出需要が減退。

# まとめ(2)

## ◆ 2012年上期展望

(1) 国内需要の大きな落ち込みは想定していないものの、競争激化は避けられない。

(2) 輸出についてはレアル高回帰により引き続き厳しい局面が続く。また新興輸出国との競争も激化し、ブラジルコストが顕在化。

(3) ブランド力の強化、販売戦略の再策定、コストダウンの継続的取組が必要とされる。

(4) 一企業の対応出来ることには限界があり、上位レベルでの対応が求められる場面も。